In Other Words と *I Mean*

関連性理論の立場から

大津 隆広

1. 本研究の枠組み

In other words も *I mean* も、ともに reformulation marker と呼ばれている。Reformulation とは、聴き手の理解を促進させる再解釈のプロセスのことで、その方法として、言い直し、詳細な説明、結論、調整, まとめ、などの様々なタイプの談話機能を包括し、前言を言い直すことで、談話関係の構築に貢献している。*In other words* は一般的に談話標識と呼ばれているが、*I mean* は連続的な談話関係ではなく話し手の態度を示しているため、談話標識とは区別すべきである(Fraser 1990: 392)。しかしながら、Wilson (2011: 26)は、談話標識とは異なるが、発話の理解以外の mindreading や emotion reading のような能力に関わる手続き的表現があると述べており、*I mean* も *in other words* と同じように手続き的表現としてまとめることができる。本論では、手続き的意味を符号化した言語表現は、多義になることも複数の手続きを同時に符号化することもないという Carston (2016: 161) の見方、および、Reformulation という結束性による分類では、同一の結束性のカテゴリーに属する談話標識の意味をうまく区別できないと示唆する Blakemore (2002: 161)による関連性理論の枠組みをもとに、*in other words* と *I mean* の手続き的意味の違いを説明する。

2. 先行研究

これまで、*in other words* と *I mean* の意味の区別を論じている研究はないと思われる。しかしながら、本論でこれら２つの言語表現の意味の区別を行う際に問題となるのは、Schiffrin (1987)の以下の議論である。

(1) *I mean* は多義的な言語表現である (pp.302-303)。

(2) *in other words* と *I mean* は、ともに置き換えによる修正を行い、その機能はパラレルである (p.304)。

(1)の *I mean* の多義性に関しては、Erman (1987)も同様の立場をとり、話し手の idea の修正を行う meta-linguistic な用法と、話し手の意図やコミュニケーション行為の修正を行う meta-communicative な用法の 2 つに分けられるとする。*I mean* の meta-linguistic な用法は、より特定的な情報を加えることで前言の指示対象を明確にし、meta-communicative な用法では、先行発話の内容が談話レベルで修正される。多義性はもとより、I mean が担う談話機能は多様であり、Brinton (2003, 2007) は *I mean* の用法を、repair, reformulation, explicitness, exemplification, cause, speaker attitude, interpersonal meaning に分類している。一方、(2)の *in other words* と *I mean* の談話機能の類似性に関しては、BNC と Wordbanks によれば、elaboration（説明、詳細化）、clarification（明確化）、cause/effect、implicated conclusion のような談話機能がともに用いられる。

関連性理論の観点からの両者の意味の記述も行われている。*in other words* の先行研究として、Blakemore (1996, 2002)は談話標識 *in other words* は、コミュニケーションの明示的側面に貢献していると述べる。例文(3)において、”fire”は “let go”の reformulation であるが、*in other words* は、先行発話の高次表意として命題(4)を復元するよう指図している。

(3) A: I’m afraid I will have to let you go.
B: **In other words**, I’m fired. (Blakemore 2002: 183)

(4) The speaker believes that P is a faithful representation of a thought Q. (Blakemore 1996: 340)

つまり、in other words により、話し手 B は、reformulate した “I’m fired” (P)は、発話 A が伝達する思考 Q の忠実な表示、解釈であると信じているという明示的意味を伝達する(Sperber and Wilson 1986/1995: 228-229; Blakemore 2002: 183)。一方、山田 (2011)は *I mean* の談話機能を supplement（補足）, restatement（言い直し）、clarification（明確化）、reasoning（理由）、concluding（結論）、emphasis（強調）、faltering（口ごもり）に分類し、“P *I mean* Q”発話において、*I mean* の手続きを、「P からの発話内容の「修正・調整」をせよ。結果、Q によりその「修正・調整」を行なうことになる」と定義し、*I mean* を adjustment marker と称している。しかしながら、手続き的制約の中に speech act カテゴリーを用いており、認知的な定義が必要である。

3. 手続き的意味の区別

Blakemore の *in other words* の例(3)に関して、*in other words* が導く reformulation とは聞き手が先行発話から解釈した思考であると言える。この点において、*in other words* の reformulation にはメタ表示というプロセスが関

係している。メタ表示とは、表示の表示という認知プロセスで、低次の表示(lower-order representation)が高次の表示(higher-order representation)に埋め込まれた形をしている。高次の表示は、発話や思考であり、それが埋め込む低次の表示には、発話のような公的表示、思考のような心的表示、文や命題のような抽象的表示である(Wilson 2000: 414)。発話が他の表示を埋め込んでいるものは言語的メタ表示と言われるが、*in other words* は utterance of utterance（発話の発話）というメタ表示を引き起こすと言える。それに対して、*I mean* に関わるメタ表示は utterance of thought（思考の発話）だと考えられる。断片的に reformulate されている例(5)では、

(5) A: Erm and I got an award from the college didn't I for engineer of the year type thing and got my photograph in the paper. company name promotion their only female technician.
B: And what do people say to you **I mean** <u>outside that world</u>? What's your what's your gran think?
(WB: UKSPOKEN_0248)

"outside the world"により reformulate されるものは先行発話にないが、おそらくこれは people の中に話し手が込めていた意味（思考）であり、それを Q として言語化している。reformulate する先行の言語要素そのものが存在しないので、どこに reformulate するもとになる情報があるかと考えると、それは話し手の thought としか考えられない。さらに、meta-linguistic な用法として捉えられていた Erman (1987)の *I mean* の例(6)では、*in other words* への置き換えは容認されない。

(6) Is there a doctrine about that — **I mean** / ***in other words**, a doctrine about disfavouring American applicants should there not be one…

このことから、*I mean* の meta-linguistic な用法は *in other words* のような前言のメタ表示ではないと言える。Schiffrin や Erman が meta-linguistic な用法として meta-communicative な用法と区別しているものも前言の思考のメタ表示、つまり utterance of thought であると言えるかもしれない。そうなると *I mean* を多義的な表現であると分析する必要はないと言える。以上の議論をもとに、*in other words* と *I mean* により符号化された手続き的意味は(7)のように定義できよう。

(7) a. "P *in other words* Q"：発話 Q を前言 P の表示あるいは解釈として処理せよ
b. "P *I mean* Q"：発話 Q を前言 P により符号化された思考として処理せよ

参考文献

Blakemore, Diane (1996) "Are Apposition Markers Discourse Markers?" *Journal of Linguistics* 32, 325-347.

Blakemore, Diane (2002) *Relevance and Linguistic Meaning: The Semantics and Pragmatics of Discourse Markers*, Cambridge University Press, Cambridge.

Brinton, Laurel J. (2003) "*I mean*: The Rise of a Pragmatic Marker," paper presented at the Georgetown University Round Table on Languages and Linguistics (GURT), Georgetown, Washington, DC.

Brinton, Laurel J. (2007) "The Development of *I mean*: Implications for the Study of Historical Pragmatics," *Methods in Historical Pragmatics*, ed. by Susan M. Fitzmaurice and Irma Taavitsainen, 37-77, Mouton de Gruyter, New York.

Carston, Robyn (2016) "The Heterogeneity of Procedural Meaning," *Lingua* 175-176, 154-166.

Erman, Britt (1987) *Pragmatic Expressions in English: A Study of you know, you see, and I mean in Face-to-face Conversation*, Almqvist & Wiksell International, Stockholm.

Fraser, Bruce (1990) "An Approach to Discourse Markers," *Journal of Pragmatics* 14, 383-395.

Schiffrin, Deborah (1987) *Discourse Markers*, Cambridge University Press, Cambridge.

Sperber, Dan and Deirdre Wilson (1986/1995) *Relevance: Communication and Cognition*, Blackwell, Oxford.

Wilson, Dierdre (2000) "Metarepresentation in Linguistic Communication," *Metarepresentations: A Multidisciplinary Perspective*, ed. by Dan Sperber, 411-448, Oxford University Press, Oxford.

Wilson, Deirdre (2011) "The Conceptual-Procedural Distinction: Past, Present and Future," *Procedural Meaning: Problems and Perspectives*, ed. by Victoria Escandell-Vidal, Manuel Leonetti and Aoife Ahern, 3-31, Emerald, Bingley.

山田大介 (2011)「つなぎ言葉 I mean と関連性」『神奈川大学人文研究』173 号, 53-79.

使用データ

British National Corpus (BNC) <http://scnweb.jkn21.com>

Wordbanks (WB) <http://scnweb.jkn21.com >